Vol.99 (2020.8.1)

市長コラム Mayor's Column

小中学生に 1人1台のパソコンを

津市長　前葉　泰幸

現在、津市の小中学校のコンピュータ教室には40台を標準に児童生徒用のパソコンが配置され、各クラスが入れ替わりで使用しています。

入学当初はひらがなの読み書きを最優先で学習する小学１年生も、タッチペンを使うお絵かきソフトなどで端末に慣れるところから始めていき、中学年の国語の授業でローマ字入力を学習するとキーボードの操作も滑らかになってきます。高学年になると社会科見学や修学旅行前の調べ学習、卒業文集の制作などに情報機器を活用するスキルが身に付き、中学校でのより高度な取り組みへとステップアップしていきます。

昨年11月に訪問した美杉小学校では、２・３年生の体育の授業の際に児童たちがタブレットを使ってマット運動の技を撮影していました。グループに分かれて動画を再生し、気付いたところを話し合いながら改善へとつなげています。低学年の頃から端末を自在に操る姿はなんとも頼もしく、学校パソコン関連機器の年間リース料２億円を教育に投資していることの価値を目の当たりにした学校視察となりました。

その翌月、国は令和５年度までに児童生徒１人に１台の端末を配備する「GIGAスクール構想」を打ち出し、補正予算で有利な財政支援策が講じられることになりました。

この機を逃さず津市は各学校に大容量の高速通信ネットワークを整備するための予算６億円を今年３月に計上。その上で、１人１台の端末を初年度は小学５・６年生の児童と中学１年生の生徒から優先的に配備し、国が目標とする令和５年度までに順次、全ての学年に行き渡るように計画しました。

ところが、このタイミングで新型コロナウイルスの感染が一気に拡大し学校を取り巻く状況が一変します。小中高校が一斉に臨時休業となり休校が長期化したことからオンライン学習の必要性が広く認識され、一刻も早い１人１台端末の実現が強く要請されるようになりました。４月、国は全ての子どもたちの学びを保証するため、さらに予算を追加しGIGAスクール構想の前倒しを決定。令和２年度中に全学年の児童生徒に１人１台の端末を確保するために支援を加速させたのです。

津市の小中学生約２万人が一斉に１人１台の端末を使い始めるために必要な費用は約11億円。それでもコロナ禍を契機としてICT(情報通信技術)環境の標準装備が学校のあるべき姿だと見なされるようになったからには、この巨額の投資を躊躇（ちゅうちょ）する理由はありません。補助金で不足する分は財政調整基金から充当する措置を講じて市の６月補正予算に盛り込むことにしました。

８月１日、津市の小中学校がわずか２週間の短い夏休みに入るや否や、前日まで子どもたちの元気な声が響いていた教室では、校内通信ネットワーク設備と１人に１台配備される端末を保管し充電する電源キャビネットを設置する工事が一斉に始まります。全ての学校に校内無線LANが整備される来春には充電の済んだ自分の端末を棚からさっと取り出し学習を始める子どもたちの姿が見られるようになることでしょう。

情報活用能力を学習の基盤となる資質・能力の一つと位置付ける新学習指導要領の実施を踏まえ、改訂版の教科書にはQRコードが掲載されています。自分の端末でその情報を読み取り理解を深める主体的な学びも、文書作成ソフトの共同編集機能を利用して一人一人の考えを全体で共有しながら作業する協働学習も、専門家の遠隔授業を受けたり他校とオンラインで連携したりする双方向型の取り組みも可能にする１人１台の端末利用は学習活動の幅を大きく広げます。

自分の端末を持ち帰り、三重大学教育学部と連携して開設した「津市e-Learningポータル」という学習支援サイトを活用して、子どもたちがそれぞれの居場所で自分のペースで学習を進めることもできるようになります。各自の学習履歴は自動的に記録され、一人一人の習熟度に応じた教員のきめ細かいフォローを可能にします。

来年度以降、再び休校措置が取られる事態が発生した場合はオンラインで授業を行います。担任が児童生徒の自宅ポストにプリントを届け、インターフォン越しに声だけでつながっていた長期休校時のもどかしさも不安も、今後はオンライン上での課題配布と提出、顔の見える双方向のやりとりが加わることで、担任と児童生徒、学校と家庭との対話の場が常に確保されている安心感へと置き換わっていくことでしょう。

ICT環境は学びの手段を豊かにします。子どもたちが自ら情報を活用して深い学びへと分け入り、分析と改善を重ねて課題の解決にたどり着く力を育もうと、教員たちの準備も次第に熱を帯びてきました。年度末までに全ての学校の情報通信設備が整うよう、しっかりと取り組んでまいります。

テレビ版市長コラムでは、前葉市長がこのテーマについて語ります　TV版　津市長コラム　検索

市長の活動日記から

養正小学校、西橋内中学校訪問・・・６月４日

５月17日から半日の分散登校方式で再開した小中学校は６月より平常授業を行っています。机を離して距離を確保し給食は全員が前を向いて食べるなど、感染防止に万全を期して学校の日常が戻りつつあります。

「市長活動日記」は津市ホームページでご覧になれます　津市長活動日記　検索

新型コロナウイルス感染症対応

第２弾・第３弾を展開！
津市独自の支援策 PART 2

津市では、10万円の特別定額給付金を全国トップクラスのスピードでお渡しするとともに、新型コロナウイルス感染症への独自支援策第１弾として13億円にのぼる事業を展開。さらに、第2弾で全ての児童生徒へタブレット端末の導入11億円、第3弾でプレミアム付商品券の発行20億円など、次々と支援策を打ち出しました。市民生活と地域経済が受けた大きな打撃を一気に払拭（ふっしょく）していくため、思い切った対策を展開します。

新型コロナウイルス感染症対策 津市の事業費の合計（一般会計）
337億881万円

津市独自の支援策 第3弾（令和２年度 ５号補正）

プレミアム付商品券を28万冊発行	20億2,450万円
夏休みの授業でエアコンを稼働、臨時スクールバスを８台運行	3,133万円
ふれあい・いきいきサロンや放課後子供教室のスタートアップ支援など	1,402万円
ひとり親世帯への臨時特別給付金、準要保護世帯への就学援助の追加	2億5,895万円

詳細は P5・P14 を CHECK!

津市独自の支援策 第2弾（令和２年度 ４号補正）

小・中・義務教育学校に１人１台の端末を導入	10億9,525万円
子どもたちの施設への感染防止対策、住居確保のための給付金支援など	1億8,118万円
地域医療の体制整備への支援、避難所の感染防止対策など	5,500万円
「津がんばるマルシェ」の実施	800万円

詳細は P3・P4 を CHECK!

津市独自の支援策 第1弾（令和２年度 ３号補正）

給食費６・７・９月分を無償化、未就学児などに給食費３カ月分相当額の支援金	4億4,879万円
売り上げが減少している事業者に津市事業継続支援金を交付	2億5,000万円
水道料金の基本料金の６・７月検針分を無料	2億3,089万円
今後の支援策のため新型コロナウイルス感染症対策事業基金を積み立て	3億7,488万円

詳細は広報津７月1日・16日合併号を CHECK!

令和２年度 ２号補正

特別定額給付金(全国民に１人10万円を支給)	279億6,500万円
子育て世帯への臨時特別給付金(児童手当に１万円を上乗せ)	3億3,480万円
新型コロナウイルス感染症拡大阻止協力金	3億7,500万円

他の予算

放課後児童クラブへの支援、消毒液の購入、アクリル製間仕切り板設置など	6,122万円

新型コロナウイルス感染症対応 津市の足跡Ⅱ

待ちに待った友だちとの給食

３密対策を取りながら仲間と一緒に♪

連日大盛況＆売り切れ続出！

- **令和２年６月１日** 水道料金の基本料金の６月検針分から無料に
- **６月１日** 学校給食の無償化スタート
- **７月～** 介護予防事業が順次スタート
- **７月３日** 津がんばるマルシェスタート
- **７月21日** 夏休み中の授業が順次スタート

Policies by Tsu City

全ての児童生徒に端末を整備！ GIGAスクール構想を前倒しで実現

- **小・中・義務教育学校の児童生徒に、１人１台の端末を確保**
- **校内に高速ネットワーク環境（無線 LAN）を整備**

学校の臨時休業等の緊急時においても、ICT(情報通信技術)を活用することで子どもたちの学びを保障できる環境を実現するため、全児童生徒分のタブレット端末２万458台と、指導者用の端末769台を購入。令和５年度までに全児童生徒に１人１台の端末を配備するという国の「GIGAスクール構想」を３年前倒しします。さらに、普通教室、一部の特別教室、体育館に高速ネットワーク環境を整備します。

ICTで学びの手段を豊かに
～千里ヶ丘小学校３年生の児童が紹介～

こんな風に活用します

教科書のQRコード※を読み取り学習サイトにアクセス！

教科書に掲載されたＱＲコードから、ネット上のデジタル教材を動画などで見ることができます。

“共同編集機能”でクラスメイトと意見が即座に共有できる♪

各自がタブレットで制作した文章や作品などを、共同編集機能を使って１つのスクリーン上で共有したり、クラスメイトと共同作業ができたりします。

遠隔地にいる人からもリアルタイムで学べるよ

外部の講師や専門家等と児童生徒が双方向にやり取りできます。質問や回答もリアルタイムで行えます。

習熟度に合わせて先生がフォローしてくれる♪

履歴で学習状況が容易に把握できるので、一人一人の興味や習熟度に合わせた指導が可能に。

他校や海外とも交流できるよ

ウェブカメラを使った他校との遠隔授業や、海外の学校と国際交流を実現！

津市e-Learningポータルで自分のペースで学習！

三重大学教育学部と津市が連携して開設した学習支援サイト「津市e-Learningポータル」で、どこにいても予習・復習ができます。

休校時でもオンラインで学習できるよ

万が一学校が臨時休業となった場合でも、オンライン学習で、学習を補うことができます。

最初は戸惑ったタブレットやタッチペンも今では上手に使えるよ♪ ICTの授業って楽しい！

問い合わせ　教委教育研究支援課　☎229-3288　FAX229-3017

※ＱＲコードの表記はデンソーウェーブの登録商標です

■６／２６　新型コロナウイルス感染症に係る三重県への緊急要望（抜粋）

③ＧＩＧＡスクール構想の加速化に対応した教員研修の実施

国のＧＩＧＡスクール構想の達成年度が前倒しされたことを受け、本市では、今年度中にすべての小・中・義務教育学校に２１，２２７台の端末の整備を行い、来年度から本格運用を始める予定です。それに向けて、すべての教員が端末を効果的に活用できるよう、各学校への指導主事による訪問研修や集合研修、オンライン研修を行っていますが、本格運用まで時間が限られているなか、さらなる研修の場が必要です。

県においても、今年度の教員研修計画のなかで、国が当初予定していた令和５年度での構想達成を見据えて、教員のＩＣＴリテラシー向上のためのプログラムも予定されていると思いますが、それが大幅に前倒しされた今、研修計画のあり方を再検討していただき、４月からの運用に間に合うよう、教員のための研修実施に向けて早急に取り組まれるよう要望します。

タブレット端末を活用した授業